

The Anthropology of Public Toilets

Department of Human Sciences
Muneo MITSUBOSHI

Abstract

The photographs of public toilets were taken in various areas in Japan from Hokkaido to Okinawa. The impression of their colors and designs were argued, with some references to the history and culture around there. The author says that the sensitivity of the people to the environmental color seems a bit higher in western parts of Japan than in eastern ones, with some exceptions. This tendency is, the author suggests, clearly seen in Okinawa area, the most western area in Japan, where the color coordination is best found in public toilets, as well as other architectures.

公衆トイレのアンソロポロジー

三星宗雄 (人間科学部)

はじめに

自然の色彩の測定や環境色彩というような分野に足を踏み入れるようになって (三星, 2006 a ; b), 我が国および海外の国々をある関心を持って回ることが多くなった。ある時京都の南禅寺を訪れた際偶然に入った公衆トイレの造りに驚いた。それは本殿の前の隅にあったが, 入口の前にちょうど目隠しになるような位置に長方形の植栽が植えられていた。したがって外から見るとそこが公衆トイレとはすぐには気がつかない。いかにも京都らしい景観に配慮した公衆トイレであった。それ以来どこかを訪れるたびに公衆トイレが気になり, できるだけ写真に収めた。今回の報告はそれらコレクションの公開である。

最終的には我が国および海外における公衆トイレのデザインや色彩, あるいは風景を構成する要素としての特徴について明らかにしたいと思うが, 残念ながら今の時点では到底目標には及ばない。したがって本報告はそこに至る前段階としてのランダムな紹介である。

カラー写真にできないことは大変残念であるが, 想像力をたくましくしていただき, 眺めていただければ幸いである。

1. 北海道

(1) 旭山動物園 (旭川市)

(a) : 入口を入ってすぐの広場にある。明るい水色の「目隠し」のあるさわやかなトイレである。(b) : 何か動物園らしくない無機質のトイレだが, 北海道という意外に前衛的な文化の中にある旭山動物園にはそれほど違和感はない。(c) :



(a)



(b)



(c)



(d)

とってつけたような緑の色が目立つが、外壁もかなり老朽化し、また中も大変臭い。全国区になる前の旭山動物園の名残か。(d)：動物園に隣接した旭山公園の一角にある。サイロを彷彿とさせるデザインおよび雪と大地を連想させる色彩のどちらの点においても第1級である。

2. 東北

(1) あぶくま洞 (福島県田村市)



(a)



(b)

鍾乳洞として有名なあぶくま洞。鍾乳洞の奇怪な現象を思わせる何かミステリアスな雰囲気を持つ (a, b)。

(2) 会津鶴ヶ城 (福島県会津若松市)



(a)

城下町として知られる会津若松。やはりトイレも武家屋敷風である。男女のトイレのマークが小さいのも奥ゆかしい。しかしきちんと障害者への対応はなされている (a, b)。



(b)

(3) 塔のへつり (福島県下郷町)



今や一大観光地となった大内宿の近くにある。「塔のへつり」とは浸食された岩があたかも塔のようにそびえる奇岩・絶壁のこと。河食地形の特異例として、国の天然記念物に指定されている。周囲の環境に配慮したトイレ。当日は少し寒かったようだ。

(4) 国宝 願成寺 (福島県いわき市)



願成寺境内 (兼駐車場) にある。寺の雰囲気とマッチしたデザインと色彩である。

3. 関東

(1) 鬼怒川温泉 (栃木県日光市)



(a)



(b)

春には枝垂桜が満開となる公園の一角にある。デザインおよび色彩とも前の願成寺のトイレと似ている。

(2) 草津 (群馬県草津町)



(a)

(a) : 温泉街の中にある。白と黒のコントラストが雪に映えてすばらしい。赤と青のトイレマークも無彩色の世界ではアクセントカラーである。



(b)

(b) : 町営露天風呂へ行く道の途中にある。「トイレ」, 「TOILET」さらには大きなトイレマークとやや大げさ過ぎないか。

(3) 香取神宮 (千葉県香取市)



全国に約 400 ある香取神社の総本社である香取神宮の境内にある。たいそう立派なものである。中もすばらしい。ちなみにこの配色は同系色濃淡(トーン・オン・トーン)か。

(4) 川越



(a)



(b)



(c)

(a)：蔵の町川越の面目躍如。ただマークにもう少し配慮があってもいいのではないか。たとえば白と黒のマークのように。(b)：寺名未確認。(c)：夕暮れに佇むトイレ。中のオレンジ色の照明が暖かい。

(5) 浅草



浅草寺境内にある。手前の赤い「街灯」と比べ、モダンなデザイン。浅草らしいモダンな顔と古い顔が同居する。ちなみに目の前の自転車の持主はいくら待ってもトイレから現れることはなかった。

(5) 宮ヶ瀬ダム (神奈川県清川村)



(a)



(b)



(c)



(d)



(e)

宮ヶ瀬ダム公園には公衆トイレがいたるところにある。(a)：ダムの上にある町(というほどではないが)に見られた。これほど簡便なトイレも珍しい。夏の期間のキャンプ用のものか。(b)：大きくて立派なトイレである。基本的に白と黒の色彩である。ダムという近代的な建築との組み合わせという点では少し不思議な感じがする。(e)・(f)：公園で一番新しい(と思われる)トイレ。これは湖水の周りの山を登ったところにあ



(f)

る。山とのつながりを意識したものと思われるが、筆者にはむしろ公園の中にある(c)や(d)と交換した方が周囲にマッチするのではないかと思われた。

(6) 大雄山 最乗寺(神奈川県南足柄市)



最乗寺の境内にある。はじめに書いた京都南禅寺で見たトイレに似た形式。「目隠し」があり、その前に植栽が配置してある。ただし中はあまり良くない。便器の周りの足場が濡れていて落ち着かない。もっとも修行僧が掃除をした直後のようにも思われた。

(7) 足柄古道 (神奈川県南足柄市)



足柄古道の「足柄の関」の入口の近くにある。取り立てて大きな特徴はないが、二重層の瓦屋根などどっしりとした立派なものである。このように沿道に単独で建つトイレは一軒家然としているデザインが良さそうだ。

(8) 野毛山動物園 (横浜市)



そのモダンな外観は旭山動物園を思わせる。いや旭山動物園がこちらを模したと言いきか。都心にある動物園のトイレとして街に非常にマッチしたものである。

(9) 観音崎 (横須賀市)



東京湾に面した観音崎灯台のふもとにある。明るいページは太陽に恵まれた三浦半島のイメージであろう。海水浴場も近く、開港都市横須賀にぴったりのモダンなデザインである。

4. 東海・甲信越

(1) 河津 (伊豆)



トイレとしては立派なものである。しかし外壁に見られる「蔵模様」は河津のイメージであろうか。隣接してバガテルガーデンというフランス風の庭園もあり、何か違和感が残るデザインである。

(2) 天城 (伊豆)



これと言って特徴はなさそうである。

(3) ミツ峠 (山梨県西桂町)



(a)



(b)

ミツ峠は標高 1785 m ほどあり、登るのはかなり大変である。途中ロッククライミングの練習場などもある。頂上近くになってから急勾配になるのだが、頂上からの眺めはすばしい。

(a) は入口にあるもので、めずらしい岩の造りである。(b) ~ (d) は登山道の途中または頂上付近にあるもので、頼りない造りだが、しかたがないところか。



(c)



(d)

(4) 佐渡



(a) 金山入口

佐渡を始め、新潟県は色彩に対する意識が非常に高い地域である。肩かごや案内表示板などに周囲に配慮した色彩の例がいたるところで見られる。ちなみに他に色彩に対する意識が高い地域としては、さすがに京都、および宮崎や鹿児島等の九州を挙げたい。どちらかと言うと、西高東低である。

(b) の「ロフト」付きトイレはユニークだが、外壁の蔵模様はどうだろうか。また「公衆トイレ」の大文字もいただけない。



(b) 関岬



(f) 大佐渡スカイライン



(c) 姫崎

(5) 富士見町 (長野県)



(d) 北鵜公園

富士見町は文化の香りのする地域である。堀辰雄の『風立ちぬ』が執筆されるきっかけとなった療養所があったことはよく知られている。また文化人が往来し、今もさまざまな催し物が行われる原村も近い。

ここは武田信玄が考案したと言われる「武田の三分水」の駐車場に立つトイレである。デザインといい、色彩といい申し分ない。中もまた一級品である。



(e) 揚島水族館前

(4) 松本城



松本城内にある。外壁が黒の板になっており、見事なものである。松本の歴史と文化にふさわしい。

5. 北陸

(1) 八尾 (富山市)



八尾の「越中おわら風の盆」。踊りも、歌も、演奏もすばらしい。八尾の町並みもすばらしい。このちいさな町にこのような高い文化が根付いているとは。そこで見つけたトイレ。デザインも白と赤茶色の色彩で統一され、八尾の町にふさわしい。当日は雨が降り（風の盆は運良く実施された）、そのためか長い行列ができていた。

(2) 高山 (岐阜県)



(a) 飛騨高山博物館前

(b)：ビルの片隅にひっそりと設置されたトイレ。ビルと一体化して、一見トイレとは気付かない。高山の主要な通りには電線がなく、美しい外観である。また市内を流れる高山川の水の流れが町に見事にマッチしている。



(b) 高山市内

(3) 白川郷 (岐阜)



(a)



(b)



(c) 貴船神社

言わずと知れた世界遺産。トイレもまた世界遺産クラスである。しかしトイレの外壁にいろいろ貼ってあるのはいけない (a, b)。

6. 関西 (以下すべて京都)



(a) 鞍馬



(d) 吉田神社：神社の参道にあるトイレとしてはめずらしいピンク色。目隠しがある。



(b) 鞍馬参道：参道途中なので、貧弱なのは仕方がないことか。



(e) 高台寺：目隠しがある。

京都の公衆トイレは概して和風デザインのものが多い。特徴的なのはその多くに目隠しが備えられている点である。目隠しは概して沖縄を含む西日本に多く見受けられる。そこに沖縄のヒンプンに表れている風水思想の影響を見るのはむしろかしいだろうか。



(f) 高台寺2：ここにも目隠しがある。



(i) 清水寺：目隠しがある。



(g) 嵯峨野：嵯峨野らしいわびさびの世界の雰囲気。



(j) 清涼寺：目隠しがある。



(h) 常寂光寺



(k) 清涼寺2



(l) 曾木：原木を使った柱に風情が感じられる。



(o) 東山二条：目隠しあり。



(m) 大覚寺：目隠しあり。



(p) 東寺：目隠しあり。



(n) 天龍寺：目隠しあり。



(q) 嵐山：デザイン、色彩ともにすばらしい。



(r) 嵐山2



(s) 嵐山3：桂川にも映える建築である。

7. 四国・中国

四国・中国地区についてはあまりデータがない。その中で竹原市（広島県）で見たトイレ表示は、全体が茶色の地に男女共に白字のデザインであった（b）。さすがに歴史的街並み保存地区に指定されているだけあり、環境に対する配慮が細かい。



(a) 徳島城内：まるで一軒の民家のようなすばらしい。



(b) トイレのものではないが、マークの色彩が周囲の環境に配慮されている（広島・竹原市）

8. 九州

九州は概して環境の色彩に対する感覚が鋭い。千々岩（2002）は東京の色彩の不統一に言及しつつ、九州佐賀地方の色彩について、「佐賀の建物や街の色は、佐賀平野の土、有明粘土の色と無関係ではあるまい。鳥栖、佐賀、肥前、山口と続く、落ち着いたある風景…」と記している。その土地の風土によってそこに住む人々の心に刻み込まれた「原風景」のようなものが残っているということであろうか。

(1) 雲仙（長崎県）



(a)

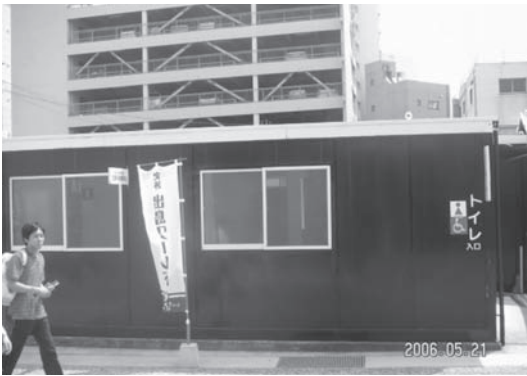


(b)



(c)

(2) 出島 (長崎県)



(a)



(d)

ただ用を足すためだけの場所のような無味乾燥な「箱」もある (a)。



(b)



(e)



(f)

(3) 宮崎県



(a) 鶴戸神宮



(b) 同

神宮らしい太い原木を使った柱や屋根が印象的である。「かわや」の文字は今やめずらしい。



(c) 青島：デザインが南国風で、沖縄に共通するものを感じられる

(4) 鹿児島県



(a) 池田湖：めずらしい円形の屋根。ネッシーのイメージか。



(b) 知覧

特にこれといった特徴は見られない。目隠しと植栽が見られる。



(c) 知覧



(f) 仙巖園：さすが薩摩島津公の庭園だけあり、歴史が感じられる。



(d) 霧島神宮：目隠しと植栽が見られる。



(g) 仙巖園2：植栽による目隠しがある。



(e) 出水：青一色のトイレはめずらしい。



(h) 長崎鼻

9. 沖縄県



(a)



(b)



(c)



(d)



(e)



(f)

昨年沖縄の色彩について調査を行った（三星，2008）。沖縄の風土色とも言える赤瓦の赤（厳密には黄赤）と琉球石灰岩を連想させる白（またはクリーム色）の組み合わせは我が国の他のどんな地域にも見られない調和を醸し出している。公共

のトイレを含めてである。そこに沖縄の人々の色彩感情と郷土愛が強く表れている。上に我が国の色彩に対する意識は、新潟などの例外はあるが、おしなべて「西高東低」と書いたが、まさに西端の沖縄にいたって頂上に達する感がある。

（g）は首里城内のトイレである。独立して設置された公共トイレではないが、紹介しておきた



(g)



(h)

い。最小限の大きさに限定されたトイレマークや、内部においても黄赤に近い木製のドアと白色の壁の組み合わせを崩さない感性に、沖縄の人々の繊細な色彩感情を感じるのである。

引用文献および参考文献

- AMR (アメニティ・ルーム・ミーティング) 編 (1989) 『アメニティを考える』, 未来社.
- 千々岩英彰 (2002) 佐賀新聞, ろんだん佐賀, 12月23日.
- 公共の色彩を考える会編 (1989) 『公共の色彩を考える』, 青娥書房.
- 三星宗雄 (2006a) 熱帯は本当に原色の世界か, AFT ジャーナル 31, 1-4.
- 三星宗雄 (2006b) 『環境色彩学の基礎』, マックローリン出版.
- 三星宗雄 (2008) 沖縄の色, 神奈川大学人文学研究所報 41, 123-132.